

8月27日(日)

限定
200パック

魚屋が作った

豪快海鮮丼

1パック

2,000(税込)円



西田鮮魚店

072-5246

御用聞き便専用番号 090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

祭りだ！祭りだ！わっしょい。西田鮮魚店の菊間です。コロナ規制も緩和され、日本各地でイベントや祭りが開催されましたね。ここ庄原でも例外ではありません。数年ぶりの花火が開催されます。そこで花火どくんに合わせて、豪華海鮮どくん！を作っちゃいました。

事の発端は数日前の朝、今週の広告商品はどんな寿司盛りにしようかな？と考えながら一日限定の丼を作っていた所店長が足を止めて一言「これ、いいじゃん。花火みたい。これにしましよー！」「え…？、なにに…何のこと？」と理解する前に「今週の広告商品は海鮮丼！花火みたいに海鮮どくん！いいじゃん。」とあれよあれよという間に決定してしまいました。

商品撮影をするからと新たに作った所、前より盛りすぎた感が…まあいいかなと。更には、丑の日でも人気の四万十川産うなぎがあるじゃん。うなぎも食べたいなあ、入れちゃえ入れちゃえと見せたらマジですかのオーラが半端なく…その後一言「頑張って仕入れてきます。」スミマセン、店長。よろしくお願いします！

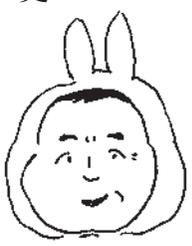
そしてお待ちかねの試食タイム。鮮魚店でも1、2を争う大食漢の長崎さんをお願いしました。「食べ応えは半端ない！食べ方は色々と出来ますね。美味しいです」と嬉しい言葉ありがどうございます！是非今回限定の海鮮どくん！を食べてみてください。皆様の御来店をスタッフ一同お待ちしております。

後、食べ方ですが、醤油に卵黄を混ぜて召し上がったら、更に美味しいですよ。

西田鮮魚店 菊間 徹也

『君はキングダムを読んだか』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



シヨックだった。

22日の火曜日、午後4時。この手紙の原稿を書き上げた。シンセイアートの福岡さんに電話した。「できたよ」。5時から予定が入っていたので、保存して出かけようとした。画面に、保存しますか？ 保存・いいえ・キャンセルの文字。なにを血迷ったか、いいえをクリックしてしまった。消えて行く画面を見てハツとしたが、もう遅い。3時間かけた文章が…。思わず悲鳴をあげた。「ウソじゃー!!!」これから、お酒を飲む。だから今日はもうできない。がつくりだ。

というわけで23日水曜日、朝6時に出てきてパソコンに向かっている。午前中に仕上げなければ、チラシの裏が真っ白になってしまう。なんだろう。頭の中には残っているはずなのに、一向に進まない。1時間たったというのに5行で止まってしまった。テーマは『キングダム』だった。昨日書いたものは忘れて、一から始めよう。それにしても…。

『キングダム』は紀元前の春秋時代の中国を舞台にした漫画だ。司馬遷の『史記』がベースになっている。中国を統一した秦の始皇帝と共に『信』という若者が大將軍へと成長していく物語。

2006年に週刊ヤングマガジンで連載開始。17年続いているということだ。単行本も69巻出ている。私はまだ14巻までしか読んでない。それも8巻から12巻は飛ばして。

去年、ソレイユの映画館バルト11にいた私は、見ようと思っていた映画まで1時間くらい間があったので、その間、どうしようかと迷っていた。その日、やけに若者が多かった。みんな『キングダム』を見に来てるらしい。名前は知っていたが、内容までは。しかし今からなら、すぐ始まる。「よし、これを見てみよう」。若い子が見る映画は、がつかりすることが多くて、基本見ないことにしているのだが、チケットを買った。

主演は山崎賢人。知らない。顔を見てもわからない。『大王』役の吉沢亮。これはわかる。大河ドラマ『青天を衝け』で渋沢栄一を演じていた。あとは、ほぼ知らない、わからない。ただし、脇を固めるベテラン俳優はわかる。豊川悦司、高嶋政宏、玉木宏、佐藤浩市、大沢たかお。

見るうち、おもしろいじゃないかと思った。見終わった。おもしろかった。ただ、若い子たちとは、ちよつと、おもしろがるどころが違ったかもしれない。豊川悦司とか佐藤浩市とかのセリフなんかに感激してるのだから。続編も見ようと思った。

そしてこの夏『キングダム3 運命の炎』が公開された。今、三女が出産のために里帰りしている。毎日、暇そうだ。『キングダム』を見に行くか？と訊くと、少し考えて「行く」という。悦子と3人で行くことにした。彼女たちは、当日までにネットフリックスで『1』と『2』を見て予習したと言う。

当日、高速道で行く。すいすい走っていると、突然、悦子が「どこへ行くん？」。私は「？」。悦子がナビを指す。ナビに『奥屋パーキングエリア』が出ている。広島東で広島高速1号に入らなければいけないの見過ごした。いつも走っている道なのに。動揺を隠しながら、次の志和インターで降りて、また乗った。早めに出ていて間に合ったからよかったものの、間に合わなかったら大ブライングだった。

今回もIMAXの大画面、大轟音。やはり、アクション大作はこれなくては。『3』おもしろかった。2時間9分、あつという間だった。

今回は山崎賢人もよくわかる。どころか、彼の成長が画面を通して感じられた。もちろん、『信』という役もそうだが、役者としてもだ。若い子は、場さえ与えられれば、あつという間に成長するんだなと驚いた。

いちばん印象に残ったのは、大沢たかおの演じた『王騎』。漫画でも怪奇な將軍として登場するが、その雰囲気のみごとに醸し出していた。77キロの体重を92キロまで増やして役づくりをしたということだが、一流の役者というのはさすがだ。

見終わって、「漫画も買うて読まんといけんのか」と、私が言うのと、三女が「お兄ちゃんの部屋にあるよ」と。「全巻か？」「全巻」。帰って、さっそく。ただ、8巻〜12巻が無かった。ちょうど、この『3』で描かれたところがごっそり。買い足さなければ



キングダム 7巻 40ページ
王騎將軍(大沢たかお)と信(山崎賢人)

やっぱり、漫画は漫画で強烈でおもしろい。さすが原作。逆に言えば、こんな漫画でしか表現できないようなものを、よく実写できたなと感心した。日本映画も捨てたもんじゃない。とくに橋本環奈が演じた『かりようてん』は漫画から、そっくり出てきたよう。清野菜名の『きょうかい』なんかもそうだが、映画では最初、『?』だったが、漫画を見てなるほどな。彼女の演技力に恐れ入った。とくにアクションシーン。

ただ、こんな全巻、戦争、戦闘シーン。まるまる男の世界みたいな漫画を、よく若い女性が好んで読むなど驚きもした。恋愛シーンなんかないし。不思議だ。

漫画を読んで映画を見るか。映画を見て漫画を読むか。どちらにしても、おもしろい。

『キングダム4』は来年の夏だろうと思う。吉川晃司が楽しみだ。

昨日書いたものとはまったく違ってしまった。